

日立空襲艦砲射撃慰霊碑「陶輪碑」



基本情報

所 在：成沢霊園
 住 所：茨城県日立市西成沢町2-11 宝塔寺付近
 (JR日立駅より 車15分)
 連 絡 先：都合により記載せず
 建 立 者：株式会社 日立製作所
 建 立 年：昭和32年

碑 文

【表】

陶輪碑

【裏】

記

昭和二十年此地空爆ト艦砲射撃ニヨリ被害夥シ、日立多賀水戸等ニ於テ其職ニ殉ゼシモノ併セテ七五一名也、今復興漸ク成ルニ方 其名ヲ録シ至誠ヲ明ニシテ気概ノ永ヘニ傳業セラレン事ヲ希フ、銘曰

身帰四大 心長留茲

継業後人 護志不渝

空盡 馬場条夫

昭和丁酉春一九五七年



基本情報

所在：成沢霊園
住所：茨城県日立市西成沢町2-11 宝塔寺付近
(JR日立駅より 車15分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：株式会社 日立製作所
建立年：昭和52年6月10日

碑文

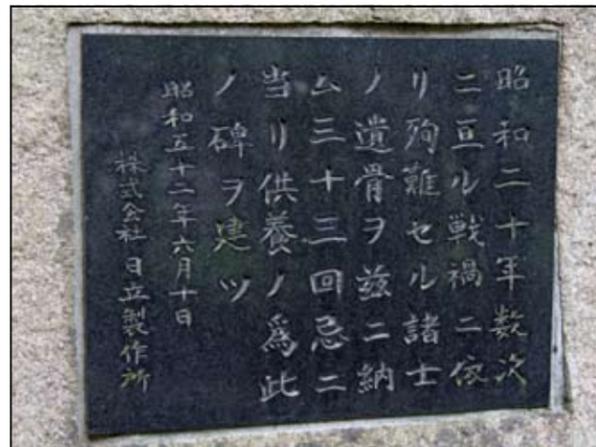
【表】

諸精霊之碑

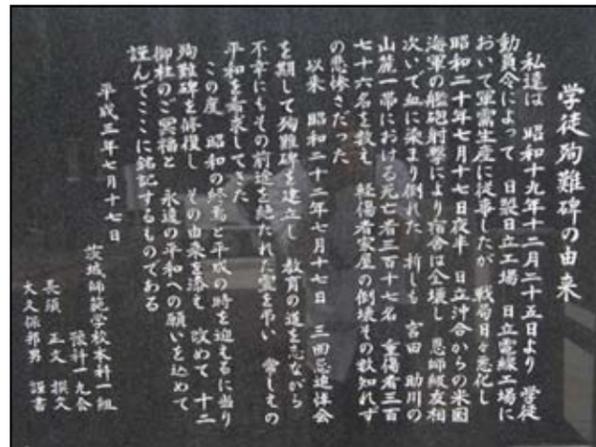
【裏】

昭和二十年数次ニ亘ル戦禍ニ依
リ殉難セル諸士ノ遺骨ヲ茲ニ納
ム三十三回忌ニ当リ供養ノ為此
ノ碑ヲ建ツ

昭和五十二年六月十日
株式会社 日立製作所



茨城師範学校学徒殉難碑



基本情報

所 在：助川台アパート跡
 住 所：茨城県日立市助川町5-14
 (JR日立駅より日立電鉄バス バス停「小平会館入り口」下車 徒歩10分)
 連 絡 先：都合により記載せず
 建 立 者：茨城師範学校本科一組、予科十九会
 建 立 年：平成3年7月17日

碑 文

嗚呼勤労学徒殉難碑

説 明 文

学徒殉難碑の由来

私達は 昭和十九年十二月二十五日より 学徒動員令によって 日製日立工場 日立電線工場において軍需生産に従事したが 戦局日々悪化し 昭和二十年七月十七日夜半 日立沖合からの米国海軍の艦砲射撃により宿舎は全壊し 恩師級友相次いで血に染まり倒れた 折しも 宮田 助川の山麓一帯における死亡者三百十七名 重傷者三百七十六名を数え 軽傷者家屋の倒壊その数知れずの悲惨さだった

以来 昭和二十二年七月十七日 三回忌追悼会を期して殉難碑を建立し 教育の道を志ながら 不幸にもその前途を絶たれた霊を弔い 常しえの平和を希求してきた

この度 昭和の終焉と平成の時を迎えるに当り殉難碑を修復し その由来を添え 改めて 十二御柱のご冥福と 永遠の平和への願いを込めて 謹んでここに銘記するものである

平成三年七月十七日
 茨城師範学校本科一組
 豫科一九会
 長須 正文 撰文
 大久保邦夫 謹書

平和の像「碧翔」と記念碑



基本情報

所 在： 駅南平和公園
 住 所： 茨城県水戸市城南2-13
 (JR水戸駅 徒歩10分)
 連 絡 先： 水戸市 総務部 総務法制課 029-224-1111 (代表)
 建 立 者： 水戸・平和の像を建てる会
 建 立 年： 平成3年8月1日

碑 文

平和の像について

水戸市は 日本国憲法に掲げられた恒久平和主義の理念に基づき 唯一の被爆国として二度と戦争の悲劇を繰り返さない願いを込め 昭和60年7月「核兵器廃絶平和都市」を宣言いたしました この宣言のもと 私たちは市制施行100周年に当たる平成元年を機に 改めて永遠に戦争のない平和な世界の実現に向けて努力することを誓い その心の表象を市民の抛金と水戸市との共同事業により 平和の像として建立することいたしました

幸いにも 私たちの願いは賛同の輪となって幾重にもひろがり ここに念願の平和の像の設置をみるに至りました

像は 平和を希求する市民の心と未来に向かって飛躍する水戸市を表現したもので空を飛び 陸を駆け 海に潜ることができる万能の力を有する不死鳥(フェニックス)に生命の源である乙女が座し 平安の彼方 宇宙に向かって飛翔する姿を表しています

平成3年8月1日

水戸・平和の像を建てる会

水戸戦災犠牲者慰霊祭



開催概要 (平成22年度)

歳 時 名： 水戸戦災犠牲者慰霊祭
 会 場： 駅南平和公園
 (JR水戸駅 徒歩10分)
 日 時： 平成22年8月1日(日) ※例年8月11日開催 (本年度にて開催終了)
 参 列 者 数： 約60人
 連 絡 先： 個人であり記載せず

式 次 第 (平成22年度)

1. 開式のことば
2. 献 花
3. 献 歌…独唱「アメージング・グレイス」
4. 黙 祷
5. 挨拶…水戸市戦災犠牲者遺族会 会長
6. 挨拶…元水戸平和記念館を創る会 会長
7. 来賓挨拶…水戸市長、水戸市議会議長、県議会議員
8. 平和の歌…斉唱「何が見えますか」
9. 閉式のことば
10. 写 真 撮 影

式 辞 (平成22年度)

「第30回水戸戦災犠牲者慰霊祭」に当たりまして、戦災の犠牲者となられました方々の御冥福を心からお祈り申し上げます。

私たちの水戸市は、一夜にして市街地の大半を焦土と化し、多くの市民の尊い命と貴重な財産を失った、昭和20年8月2日未明の空襲から、今年で65年の年月が過ぎようとしています。

戦後の日本は、水戸市をはじめとし、一面の焼け野原からスタートをしたわけですが、人々のたゆまぬ努力により、力強く復興を果たしました。そして、自由と平等の社会を築き上げるとともに、経済的にも豊かな国になりました。

しかしながら、長い年月の経過により、水戸市においても戦後生まれの市民が78パーセントを超えるなど、戦争を知らない世代が増加する中、平和に対する意識の低下が懸念されているところであります。

こうした社会情勢にあつて、水戸戦災犠牲者遺族会、水戸平和記念館を創る会の皆様方が、水戸空襲の悲劇と平和への尊さを後世に伝えるため、長年に渡り活動されておりますことは誠に意義深いものであり、心から敬意を表する次第でございます。

このたびの水戸戦災犠牲者慰霊祭は、30回という節目を迎えるとともに、最後の慰霊祭になるということで、誠に残念ではございますが、これまでの関係者の皆様方の御芳苦に對しまして心から感謝を申し上げます。

本市といたしましても、昨年银杏坂に開館しました水戸市平和記念館を拠点として、今後多くの市民の皆様と平和の尊さについて共に考えていくとともに、これまで以上に平和な社会の実現に向けて、尽力して参ることをお誓いいたしまして、ごあいさついたします。

水戸市長 加藤 浩一